

棚田景観の価値付けを契機とした地域活動の活発化

- 島根県奥出雲町を事例として

大阪市立大学文学部 2年 中西 広大、新雄一郎、徐尚佑

1. 研究目的

- 棚田景観が文化的景観に選定されたことが奥出雲町にどのような影響を与えたのかを調査する。
- 奥出雲町の文化的景観を観光資源として発信する効果的な方法を提案する。

調査期間 : 2015年9月11～15日

2. 奥出雲町のたたら製鉄と棚田について

奥出雲町では古くから、山を削って砂鉄を取り、そこから鉄を作るたたら製鉄が行われてきた。また削った跡を棚田として利用することで、米作りを生業としてきた。



3. 選定前後の住民の反応

奥出雲の景観を何とかして価値付けできないか。

2010年
調査開始

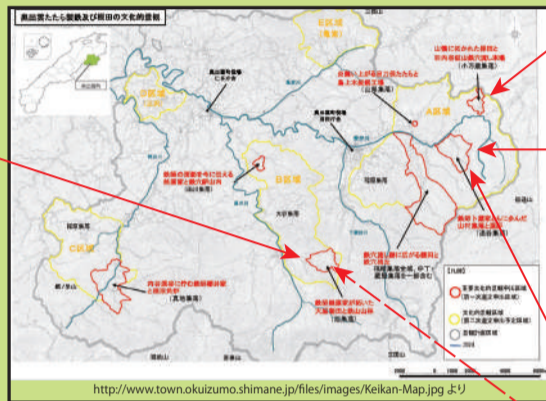
2014年
重要文化的景観に選定される



教育委員会



日本の棚田百選に選ばれた旭集落の大原新田



http://www.town.okuizumo.shimane.jp/files/images/Keikan-Map.jpgより



→ 鉄穴流しの跡

羽内谷鉦山の鉄穴（かな）流し本場では、年に2回地域の小学生に向けた鉄穴流しのレクチャーを行い、たたら製鉄の技術を次の世代に伝えている。



↑ 追谷集落が作成した冊子

追谷集落では5大鉄師の1つであるト藏（ぼくら）家とそのゆかりの地を紹介する冊子作りや、企業と連携して米の付加価値向上を目指す活動など、新たな価値を生み出す工夫を自治会が行っている。



追谷集落と、旭集落の大原新田では棚田を一望できる展望台を住民が自ら作った。この取組みは現在、福頼集落など奥出雲町の他の地区でも、計画が進んでいる。

← 追谷集落の展望台でのヒアリング調査

- たたらや棚田について調査してほしいという要請が住民から行政にあげられていた。
- 自主勉強会を開くなど、住民の関心は高かった。
- 選定後は、愛着のある奥出雲町の景観や生活が価値付けられたことが動機となって、住民主体の様々な活動が行われるようになった。

4. 観光推進課の取組み

- 観光推進課は観光客の多様なニーズに応えられるように、町内の様々な観光資源を探しPRしている。
- 文化的景観だけをPRするのではなく、資源の1つとしてほかの観光資源と上手く組み合わせながら発信できないか考えている。



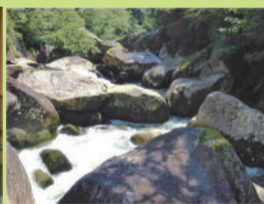
奥出雲おろち号



そばと仁多米



佐白温泉 長者の湯

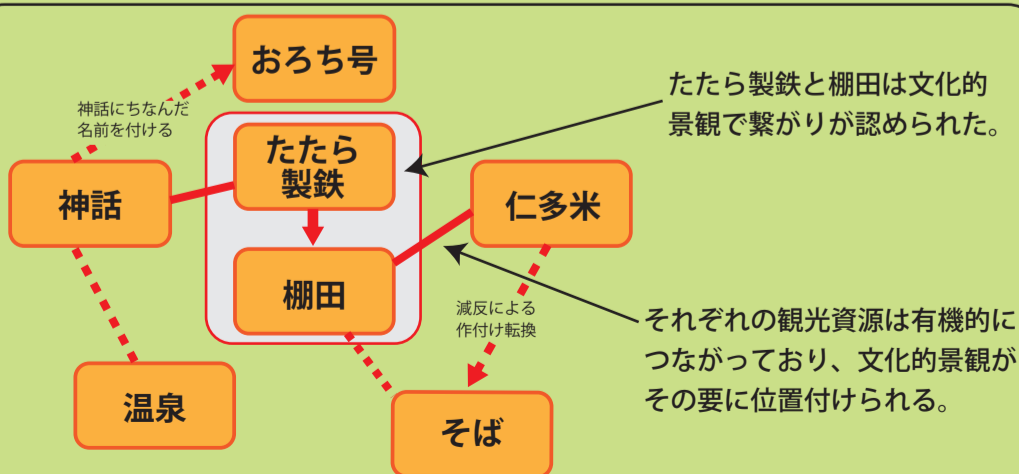


鬼の舌震

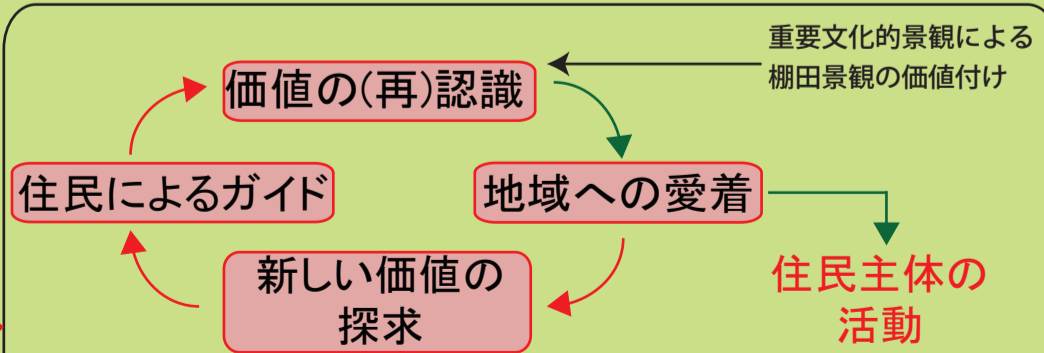
5. 調査のまとめ

- 奥出雲町では重要文化的景観による価値付けをきっかけに、住民の主体的な活動が活発化した。
- 若い住民は文化的景観や地域の価値付けよりも福祉や雇用に関心が高く、住民活動のこの先の担い手はまだ少ない。
- 観光客の目当ては神話や温泉で、観光客からの文化的景観の認識は低い。

6. 今後のPRに向けた提案



- 奥出雲町の様々な観光資源は、実は有機的なつながりを持っていることに気づいてもらう。
- その要を担うのは「たたらと棚田の文化的景観」。



- 地域住民が観光客へ向けたガイドを行うことで、住民も奥出雲の価値を再認識し、住民の誇りや愛着に繋がる。これによって住民の活動は活発になり、奥出雲の魅力が増えていく。
- このサイクルが確立されるような仕掛け作りが必要。